

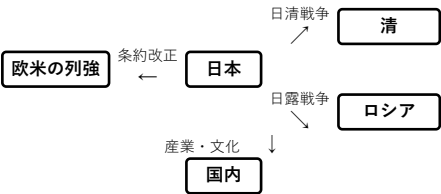
1 全体像	2・3 条約改正	4・5 日清戦争	6・7 日露戦争	8・9 韓国と中国	10・11 産業革命	12・13 近代文化	14 まとめ
-------	----------	----------	----------	-----------	------------	------------	--------

1 この単元の全体像 ― なぜ、日本は清やロシアと戦争をすることになった？

このページのゴール 条約改正から日清・日露戦争、韓国併合と辛亥革命までの流れと、この単元で学ぶ6つのことを、ざっと言える

⑧では、明治政府が憲法をつくり、近代国家のしくみを整えたことを学びました。そのころ、欧米の列強（れっきょう。強い国々）は、アジアやアフリカに植民地を広げていました。日本は、⑦で学んだ不平等条約を改正して欧米と対等になろうとし、朝鮮や満州（まんしゅう。中国の東北部）をめぐる、清（しん）・ロシアと戦いました。国内では産業革命が進み、新しい文化が生まれました。

明治時代（1868～1912年。⑧で学んだ明治維新から続く）							
1886年	1894年	1895年	1902年	1904年	1905年	1910年	1911年
ノルマントン号事件（3）	領事裁判権の撤廃（てっぱい）（3）・日清戦争（4）	下関（しもせき）条約・三国干涉（さんごくかんしょう）（5）	日英同盟（6）	日露戦争（6）	ポーツマス条約（7）	韓国併合（へいごう）（8）	関税自主権（かんぜいじしゅけん）の回復（3）・辛亥革命（しんがいかくめい）（9）



① 条約改正 くわしくは2・3ページ
不平等条約を改正するまでの歩みを学びます。

② 日清戦争 くわしくは4・5ページ
朝鮮をめぐる清との対立と、戦争の結果を学びます。

③ 日露戦争 くわしくは6・7ページ
満州や韓国をめぐるロシアとの対立と、戦争の結果を学びます。

④ 韓国と中国 くわしくは8・9ページ
日本の韓国の植民地化と、中国の革命を学びます。

⑤ 産業革命 くわしくは10・11ページ
工業の発展と、そこで生まれた問題を学びます。

⑥ 近代文化 くわしくは12・13ページ
教育・科学・美術・文学の発展を学びます。

この単元の問い なぜ、日本は清やロシアと戦争をすることになった？（答えは14ページ）

この単元の解説記事（図と例題つき）：[かてきょノート \(katekyo-note.com\)](https://katekyo-note.com/) <https://katekyo-note.com/%e3%80%90%e4%b8%ad2%e7%a4%be%e4%bc%9a%e3%83%bb%e6%ad%b4%e5%8f%b2%e3%80%91%e6%97%a5%e6%b8%85%e3%83%bb%e6%97%a5%e9%9c%b2%e6%88%a6%e>

2 欧米の列強は、アジアやアフリカで何をしていた？

このページのゴール 帝国主義の意味と列強の進出、不平等条約の2つの中身と、それで日本が困ったことを言える

① 列強が植民地を広げた

⑦では、産業革命がヨーロッパで始まり、イギリスが清とアヘン戦争（1840年）を戦ったことを学びました。19世紀の終わりごろ、産業が発展した欧米の列強は、工場で使う原料と、できた製品を売る市場を求めて、軍力でアジアやアフリカに植民地（しょくみんち。他の国に支配された地域）を広げました。

帝国主義（ていこくしゅぎ）＝19世紀の終わりごろ、資本主義の発展を背景に、欧米の列強が、原料と製品を売る市場を求めて、軍力でアジアやアフリカに植民地を広げた動き

列強の国	おもに進出した所
イギリス	インド・アフリカの各地
フランス	インドシナ（今のベトナムなど）・アフリカ
ドイツ	アフリカ・太平洋の島々
アメリカ	ハワイ・フィリピン（1898年）
ロシア	シベリア鉄道をつくり、東アジアへ南下（北から南へ勢力をのばすこと）しようとした

アフリカは、20世紀の初めには、エチオピアとリベリアを除くほとんどの地域が植民地になりました。

② 不平等条約（⑦で学んだ）

幕末に結んだ日米修好通商条約（1858年）などは、日本に不利な不平等条約でした。大きな中身は2つあります。

中身	意味	日本が困ること
領事裁判権 （りょうじさいばんけん）を認める	日本で罪をおかした外国人を、その国の領事が、その国の法律で裁く権利	外国人が罪をおかしても、日本の法律で裁けない
関税自主権 （かんぜいじしゅけん）が無い	輸入品にかかる税の率を、自分の国で決める権利	税の率を日本だけで決められず、安い外国の品物が入っても、税を上げて国内の産業を守れない

この条約を改正することは、明治政府の大きな目標でした。⑧の岩倉使節団は、条約改正の交渉をしましたが、成功しませんでした。

注意 × 領事裁判権とは、日本の裁判所が外国人を裁く権利のことだ → ○ 外国人を、その国の領事がその国の法律で裁く権利。日本は外国人を裁けなかった

合言葉 「列強は植民地を広げ、日本は不平等条約に苦しむ」

→ まとめ：列強に対抗するため、日本は欧米と対等な国になろうとした

3 日本は、どのようにして不平等条約を改正した？

このページのゴール 欧化政策、領事裁判権の撤廃、関税自主権の回復を言える

① 欧化政策（1880年代）



鹿鳴館
(東京につくられた洋風の建物)
写真：アムステルダム国立美術館の所蔵品
(パブリックドメイン)。Wikimedia
Commons より、白黒にして切り取った

政府の井上馨（いのうえかおる）は、不平等条約を改正するため、日本が欧米と同じように近代化したことを示そうとしました。東京に鹿鳴館（ろくめいかん。1883年）を建てて舞踏会を開くなど、欧米の制度や生活様式を取り入れた欧化政策（おうかせいさく）です。しかし、国民からは強い批判を受け、改正も成功しませんでした。

② 領事裁判権の撤廃（1894年）

1886年、イギリスの貨物船ノルマントン号が和歌山県の沖で沈み、イギリス人の船長や乗組員はボートで助かりましたが、日本人の乗客は全員が亡くなりました。船長は、イギリスの領事による裁判で軽い罰しか受けて、領事裁判権の撤廃を求める声（世論〈よろん〉）が高まりました。

領事裁判権の撤廃＝1894年、外務大臣の陸奥宗光（むつむねみつ）がイギリスと日英通商航海（にちえいつうしょうこうかい）**条約**を結んで成功した（関税自主権も一部回復）。日清戦争の直前で、ロシアの南下を警戒するイギリスが、日本との関係を良くしようとして応じた

③ 関税自主権の回復（1911年）

関税自主権の回復＝1911年、外務大臣の小村寿太郎（こむらじゅたろう）がアメリカとの条約で完全に回復し、日本は欧米と対等な立場になった

改正した物	年	外務大臣	相手の国	後おししたこと
領事裁判権の撤廃	1894年	陸奥宗光	イギリス	ロシアを警戒したイギリスの接近。憲法や法律の整備
関税自主権の回復	1911年	小村寿太郎	アメリカ	日清・日露戦争の勝利で、国際的な地位が上がった

注意 × 関税自主権は、1894年に陸奥宗光が完全に回復した → ○ 1894年は領事裁判権の撤廃（関税自主権は一部だけ）。完全な回復は1911年の小村寿太郎

合言葉 「陸奥が領事裁判、小村が関税」

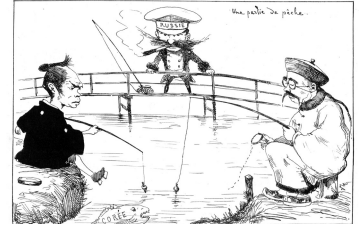
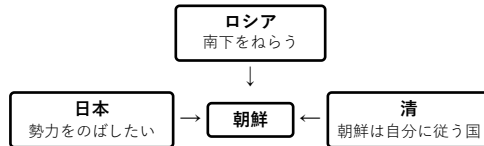
→ まとめ：日本は近代化を進め、欧米に認められて対等な立場を手に入れた

4 日本と清は、なぜ戦争をすることになった？

このページのゴール 朝鮮をめぐる日本と清の対立、甲午農民戦争、日清戦争の始まりと結果を言える

① 朝鮮をめぐる日本と清の対立

⑧で学んだ日朝修好条規（1876年）のあと、日本は朝鮮に勢力をのぼそうとしました。一方、清は、朝鮮を自分に従う国（属国）とみていました。そのため、朝鮮をめぐる日本と清が対立しました。朝鮮の北にある大国ロシアも、南下をねらっていました。



ビゴの風刺画
（魚は朝鮮。日本と清がつり、ロシアがねらう）
絵：ジョルジュ・ビゴ（著作権切れ）。Wikimedia Commons より、白黒にして切り取った

② 甲午農民戦争（1894年）

甲午農民戦争（こうごのうみんせんそう）＝1894年、朝鮮で、東学（とうがく）という宗教を信仰する人々を中心とした農民が、政治の改革と外国の勢力の排除を求めて起こした反乱

朝鮮の政府が清に兵を送るよう求めると、日本も対抗して兵を送りました。反乱がおさまった後も、両国の軍は朝鮮にとどまって対立しました。

③ 日清戦争の始まりと結果

日清戦争＝1894年、朝鮮をめぐる日本と清の間で始まった戦争。近代的な軍隊を整えた日本が勝った

注意 × 日清戦争は、日本と清が満州をめぐる争った戦争だ → ○ 朝鮮をめぐる争った戦争（満州をめぐる対立は日露戦争。6ページ）

合言葉 「朝鮮をめぐる、日本と清が対立」

→ まとめ：日本は朝鮮に勢力をのぼそうとして、清と対立した

5 日清戦争の後、日本と東アジアはどう変わった？

このページのゴール 下関条約の内容、三国干渉とその後の日本、台湾の植民地支配を言える

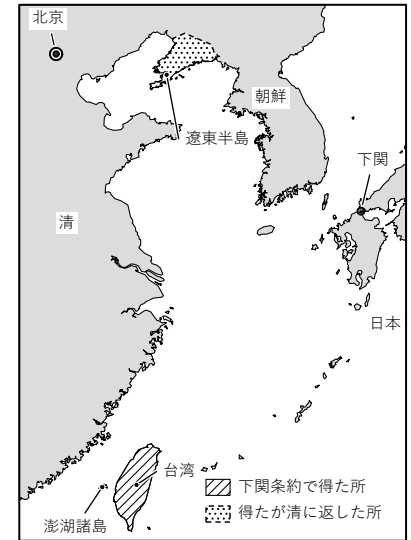
① 下関条約と台湾の植民地支配（1895年）

4ページの日清戦争に勝った日本は、1895年、山口県の下関で、清と講和（こうわ。戦争を終わらせる話し合い）の条約を結びました。日本の代表は、伊藤博文（いとうひろぶみ）と陸奥宗光でした。

下関条約＝1895年の日清戦争の講和条約

- ① 清は朝鮮の独立を認める
- ② 清は遼東半島（りょうとうはんとう）・台湾・澎湖諸島（ほうこしやうとう）を日本にゆずる
- ③ 清は日本に多額の賠償金（ばいしょうきん。戦争に負けた国が支払うお金）を支払う

日本は、台湾に台湾総督府（そうとくふ）を置いて、植民地として治めました。台湾の人々の抵抗を、軍隊でおさえました。



地図：Natural Earth

② 三国干渉

- ① 下関条約で、日本が遼東半島を得る
- ② ロシア・ドイツ・フランスの3国が、遼東半島を清に返すよう日本に求める（三国干渉）
- ③ 日本は、3国に対抗する力が無かったので、これを受け入れる
- ④ 国民の間でロシアへの反感が強まり、政府は、賠償金の多くを使って、ロシアに対抗するための軍備の拡張を進める（一部は八幡製鉄所の建設にも使った。11ページ）

注意 × 返還を求めたのは、イギリス・アメリカ・ロシアだ → ○ ロシア・ドイツ・フランス

合言葉 「下関で台湾、三国干渉で遼東半島を返す」

→ まとめ：三国干渉で、日本とロシアの対立が始まった

1 全体像	2・3 条約改正	4・5 日清戦争	6・7 日露戦争	8・9 韓国と中国	10・11 産業革命	12・13 近代文化	14 まとめ
-------	----------	----------	----------	-----------	------------	------------	--------

6 日本とロシアは、なぜ戦争をすることになった？

このページのゴール 中国分割と義和団事件、日英同盟、開戦論と非戦論を言える

① 中国分割から開戦まで

5ページの三国干渉の後、ロシアは東アジアへの進出を強めました。日清戦争で清の弱さが分かると、列強は清から、港を借りる権利（租借〈そしゃく〉）や鉄道をしく権利を得て、勢力範囲を広げました（列強の中国分割。ロシアのほか、ドイツ・イギリス・フランスも港を租借しました）。

- ① 1898年 ロシアが、日本が返した遼東半島の旅順（りょじゅん）・大連（だいにん）を租借する
- ② 1900年 義和団事件が起こり、その後もロシアが満州に大軍をとどめる
- ③ 1902年 日本が、イギリスと日英同盟を結ぶ
- ④ 1904年 日露戦争が始まる

義和団事件（ぎわだんじけん）＝1900年、外国の勢力を追い出そうとする義和団が北京の各国の公使館を取り囲み、日本やロシアなどの連合軍がしずめた事件

韓国（朝鮮は1897年に国名を大韓帝国〈韓国〉に改めた。8ページ）に勢力をのばそうとする日本と、満州に軍をとどめるロシアの対立が深まりました。

日英同盟＝1902年、ロシアの南下を警戒するイギリスと日本が結んだ同盟

② 開戦論と非戦論

戦争を求める声	戦争に反対する声
三国干渉でロシアへの反感が強まった国内で、ロシアとの戦争を求める声が強まった	<u>内村鑑三</u> （うちむらかんぞう。キリスト教徒）と <u>幸徳秋水</u> （こうとくしゅうすい。社会主義〈貧富の差をなくそうとする考え〉の人）は、戦争に反対した。歌人の <u>与謝野晶子</u> （よさのあきこ）は、日露戦争が始まると、戦場にいる弟を思う詩「君死にたまふことなかれ」を発表した

③ 日清戦争と日露戦争のくらべ

	日清戦争	日露戦争
争いの中心	朝鮮	韓国（朝鮮）と満州
始まる前のできごと	甲午農民戦争で、日本と清が朝鮮に兵を送った	義和団事件の後ロシアが満州に軍をとどめ、日本がイギリスと日英同盟を結んだ

注意 × 日英同盟は、イギリスがフランスに対抗するために日本と結んだ → ○ ロシアの南下を警戒して結んだ

合言葉 「満州のロシアに、日英同盟で備える」

→ まとめ：韓国と満州をめぐる、日本とロシアが対立した

7 日露戦争の結果、日本はどうなった？

このページのゴール 日露戦争の国民の負担、ポーツマス条約、日比谷焼き打ち事件、日露戦争の影響を言える

① 日露戦争とポーツマス条約（1905年）

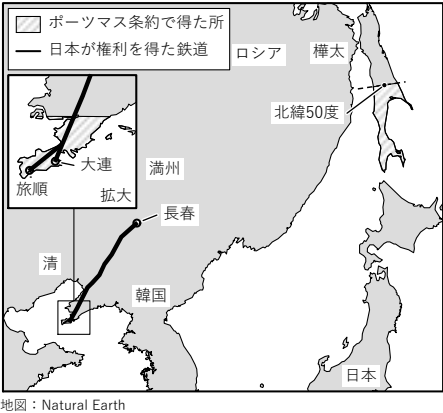
1904年に日露戦争が始まりました。日本は勝利を続けましたが、日清戦争よりもずっと多くの兵士が死傷し、戦争の費用もずっと多くなりました。費用は、国民への増税と、国内や外国からの借金でまかないました。日本もロシア（国内で革命の動きが起こった）も、戦争を続けることがむずかしくなりました。

ポーツマス条約＝1905年、アメリカの大統領の仲立ちで、アメリカのポーツマスで結んだ日露戦争の講和条約。日本の代表は小村寿太郎

- ① ロシアは、韓国における日本の優越を認める
- ② 旅順・大連の租借権と、長春（ちょうしゅん）から南の鉄道の権利を日本にゆずる
- ③ 北緯50度より南の樺太（からふと。サハリン）を日本にゆずる

賠償金は得られなかった

増税などの重い負担にたえた国民は、賠償金が得られないことを知って講和に強く反対し、東京の日比谷（ひびや）の集会をきっかけに暴動が起こりました（**日比谷焼き打ち事件**）。



	下関条約（1895年・清）	ポーツマス条約（1905年・ロシア）
得た土地や権利	遼東半島（後に返す）・台湾・澎湖諸島	韓国での優越・旅順と大連の租借権・長春から南の鉄道・北緯50度より南の樺太
賠償金	あり	なし

日露戦争の影響 アジアの国の日本が欧米の大国ロシアに勝ったことは、欧米の支配を受けていたアジアの人々に刺激をあたえました。日本は列強の一員としての地位を固め、1911年の関税自主権の回復（3ページ）につながりましたが、一方で、韓国や満州への進出を強めました。

注意 × ポーツマス条約で遼東半島と台湾を得た → ○ それは下関条約

合言葉 「ポーツマスで樺太の南、賠償金は無し」

→ まとめ：日本は勝ったが、国民の負担は重く、大陸への進出を強めた

8 日本は、韓国をどのようにして植民地にした？

このページのゴール 韓国の保護国化と統監府、義兵運動、韓国併合と朝鮮総督府、植民地支配のようすを言える

① 保護国から併合まで

7ページのポーツマス条約で、ロシアは韓国における日本の優越を認めました。朝鮮は、1897年に国名を大韓帝国（韓国）に改めていました。日本は、韓国への支配を強めていきました。

- ① 1897年 朝鮮が国名を大韓帝国に改める
- ② 1905年 日本が韓国を保護国（外交の権利をうばわれ、日本に動かされる国）にして、統監府を置く
- ③ 1909年 伊藤博文が、韓国の独立運動家の安重根（アンジュンゲン）に暗殺される
- ④ 1910年 日本が韓国を併合する

統監府（とうかんふ）＝日露戦争の後、日本が韓国を保護国にして置いた、韓国の外交などを動かす役所。初代の統監は伊藤博文

② 義兵運動

韓国では、日本の支配に反対する人々が各地で立ち上がりました（義兵運動。義兵〈ぎへい〉は、外国の支配に抵抗して立ち上がった人々）。日本は、これを軍隊でおさえました。

韓国併合＝1910年、日本が韓国を併合して植民地にしたこと。日本は朝鮮総督府を置いて朝鮮を治めた

③ 植民地支配のようす

学校では日本語や日本の歴史を教え、朝鮮の歴史を教えることを制限しました。土地の調査では、土地の持ち主であることを証明できず、土地を失う人々も出ました。

	1905年	1910年
日本がしたこと	保護国にする	併合して植民地にする
置いた役所	統監府	朝鮮総督府

注意 × 日露戦争の直後に、日本は韓国を併合した → ○ 1905年は保護国にして外交の権利をうばった。併合は1910年

合言葉 「保護国で統監府、併合で総督府」

→ まとめ：日本は、ロシアと争った韓国を植民地にした

9 清は、どのようにしてほろびた？

このページのゴール 孫文と三民主義、辛亥革命、中華民国の建国と清の滅亡、日本の満州への進出を言える

① 孫文と三民主義

5・6ページのように、清は日清戦争の後に列強に港を租借され、義和団事件も起こって、力が弱まりました。清では、清をたおして新しい国をつくろうとする革命運動が広がりました。

孫文（そんぶん）＝清をたおす革命運動の中心になり、三民主義（さんみんしゅぎ）をとこなえた人物

民族	民権	民生
民族の独立	民主政治の実現	国民の生活の安定

② 辛亥革命と中華民国

- 1911年 武昌（ぶしょう。今の武漢〈ぶかん〉）で、軍隊が反乱を起こす
- 1911年 革命が各地に広がり、多くの省が清からの独立を宣言する
- 1912年 孫文を臨時大総統として、南京を首都とする中華民国が建国される
- 1912年 清の皇帝が退位して、清がほろびる
- その後 北京の軍の実力者の袁世凱（えんせいがい）が大総統になり、独裁的な政治を行う

辛亥革命＝1911年、武昌の軍隊の反乱から各地に広がり、清をたおした革命

中華民国は、アジアで最初の共和国（皇帝や王がない国）です。

③ 日本の満州への進出

1906年、日本は南満州鉄道株式会社（満鉄）をつくり、ポーツマス条約で得た鉄道を経営して、満州への進出を進めました。

年	中国	日本
1911年	辛亥革命が起こる	関税自主権を完全に回復する（3ページ）
1912年	中華民国が建国され、清がほろびる	明治時代が終わる

注意 × 中華民国は、清の皇帝を中心とする国として建国された → ○ 皇帝のいない共和国。清の皇帝は退位した

合言葉 「孫文の三民主義、辛亥革命で中華民国」

→ まとめ：清がほろび、日本は満州への進出を進めた

10 日本の産業革命は、どの工業から始まった？

このページのゴール 紡績業と製糸業のちがいを、綿糸と生糸の輸出、工場で働いた人々、財閥を言える

① 軽工業から始まった産業革命

⑧では、政府が殖産興業（しょくさんこうぎょう）を進め、富岡製糸場をつくったことを学びました。1880年代の後半から、日本でも機械を使う大工場が増え、糸や布など、くらしに身近な物をつくる軽工業を中心に産業革命が進みました。

産業革命（日本）＝1880年代の後半から、軽工業を中心に、機械を使う大工場では品物をつくるようになった変化

工業	原料	製品	おもな場所	製品の行き先
紡績業（ぼうせきぎょう）	綿花	綿糸	大阪など	国内と、中国・朝鮮へ
製糸業（せいしぎょう）	蚕のまゆ	生糸	長野県・群馬県など	おもにアメリカへ（日本の最大の輸出品）

① 輸入した機械を使う大工場が、大阪などにつくられ、綿糸の生産が始まる

② 1890年ごろ 綿糸の国内の生産量が、輸入量を上回る

③ 日清戦争の後 綿糸の輸出量が、輸入量を上回る

生糸の輸出量は、1909年には世界一になりました。

② 工場で働いた人々

工場で働く人の多くは、農村から来た若い女性で、長い時間、安い賃金で働く人が多くいました。

考え方 資料から読み取る問題では、知識として正しくても、資料に書いていないことは選びません。（例：学校新聞に「部活動の入部者が増えたが、練習する場所が足りない」と書いてあるとき、「入部者が増えた」は読み取れますが、「先生が減った」は書いていないので選べません）

③ 財閥

財閥（ざいばつ）＝三井・三菱・住友・安田などの資本家が、銀行・鉱山・貿易・工業など、多くの業種の会社を経営して、日本の経済を動かすようになったもの

注意 × 製糸業は、綿花から綿糸をつくる工業だ → ○ それは紡績業。製糸業は、蚕のまゆから生糸をつくる

合言葉 「綿は紡績、まゆは製糸」

→ まとめ：日本の産業革命は、紡績業と製糸業の軽工業から始まった

11 産業の発展は、人々の暮らしに何をもたらした？

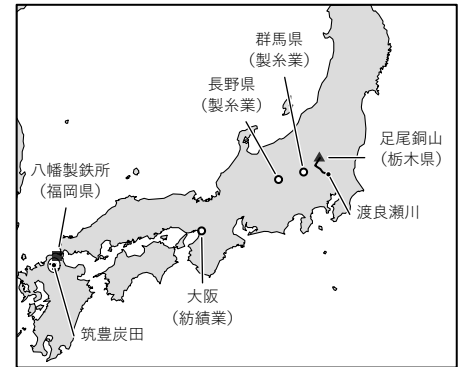
このページのゴール 八幡製鉄所と重工業、労働問題と労働組合、足尾銅山鉱毒事件を言える

① 重工業の発展

10ページの軽工業の次に、日露戦争の後には、鉄鋼・造船・機械など、重い物をつくる重工業が発展しました。

八幡製鉄所（やはたせいてつじょ）＝日清戦争の賠償金の一部を使って、政府が福岡県（今の北九州市）に建てた官営の製鉄所。1901年に操業を始め、近くの筑豊炭田（ちくほうたんでん）の石炭と、中国から輸入した鉄鉱石を使って鉄鋼をつくった

考え方 工場の場所は、原料や燃料が近くで手に入る所から考える



地図：Natural Earth

② 労働問題

工場で働く人々の長時間労働や低い賃金が問題になりました（労働問題）。人々は労働組合をつくり、賃金の引き上げや労働時間の短縮を求めて、ストライキ（労働争議）を起こしました。1911年には、子どもを工場で働かせることや長時間の労働を制限する工場法が定められました（内容は不十分でした）。社会主義の運動はきびしく取りしまられ、1910年の大逆事件（たいぎゃくじけん）で幸徳秋水らが処刑されました。

③ 足尾銅山鉱毒事件



足尾銅山
（栃木県。1895年ごろのようす）
写真：撮影者不明（パブリックドメイン）。
Wikimedia Commons より、白黒にした

足尾銅山鉱毒事件＝栃木県の足尾銅山（あしおどざん）から出た鉱毒が渡良瀬川（わたらせがわ）に流れ、下流の田畑や川の魚に大きな被害が出た事件。衆議院議員の田中正造（たなかしょうぞう）が、議会で取り上げて、銅山の操業の停止と被害を受けた人々の救済を求めた。日本の公害の原点といわれる

合言葉 「八幡で鉄、足尾で鉱毒」

注意 × 八幡製鉄所は、生糸や綿糸をつくる軽工業の工場だ → ○ 鉄鋼をつくる重工業の工場

→ まとめ：産業が発展した一方で、労働問題や公害が生まれた

12 明治時代に、教育と科学はどう発展した？

このページのゴール 教育の広がり、世界的な研究をした医学者を言える

① 教育の広がり

⑧で学んだ学制（1872年）のあと、小学校に通う子どもが増え、明治時代の終わりには、ほとんどの子どもが通うようになりました。女子の教育も広がり、津田梅子（つだうめこ）が女子英学塾を開きました。

年	できごと
1872年	学制が出される（⑧）
1890年	教育勅語（きょういくちよくご）が出され、忠君愛国（天皇に忠義をつくし国を愛すること）の道徳が教えられる
1900年	津田梅子が女子英学塾を開く
1907年	義務教育の期間が延びる

② 自然科学

欧米の学問を学んだ日本の学者が、世界的な研究をしました。感染症（かんせんしょう。細菌などがうつって起こる病気）の研究は、多くの人の命を救うことにつながりました。

人物	研究
<u>北里柴三郎</u> （きたざとしはさぶろう）	破傷風（はしょうふう）の治療の方法（血清療法）を発見し、ペスト菌を発見した
<u>志賀潔</u> （しがきよし）	赤痢菌（せきりきん）を発見した
<u>野口英世</u> （のぐちひでよ）	黄熱病（おうねつびょう）の研究をした（アフリカで研究中に亡くなった）

③ メディアの発達

新聞や雑誌が多く発行され、人々は国内や世界のできごとを知るようになりました。日清・日露戦争のようすも、新聞で伝えられました。電信や電話も広まりました。

注意 × 北里柴三郎は、黄熱病の研究をアフリカで行った → ○ それは野口英世。北里柴三郎は、破傷風の血清療法とペスト菌の発見

合言葉 「北里はペスト、志賀は赤痢、野口は黄熱病」

→ まとめ：欧米の学問を学んだ日本人が、世界で認められる研究をした

13 明治時代の文化には、どんな特色がある？

このページのゴール 美術・音楽・文学の主な人物と作品、明治時代の文化の特色を言える

① 美術・音楽・文学

12ページの学問や教育の発展と同じころ、芸術でも新しい動きが起こりました。

分野	人物	作品・特色
日本画	フェノロサ（アメリカ人）・ <u>岡倉天心</u> （おかくらてんしん）	日本の伝統的な美術の価値を見直し、その復興に努めた
日本画	<u>横山大観</u> （よこやまたいかん）	伝統をふまえた新しい日本画をえがいた
西洋画	<u>黒田清輝</u> （くろだせいき）	フランスで学んだ、明るい色の西洋画をえがいた
彫刻	<u>高村光雲</u> （たかむらこううん）	伝統的な木彫りの技術で「老猿」をつくった
音楽	<u>滝廉太郎</u> （たきれんたろう）	「荒城の月」「花」を作曲した（学校では唱歌が教えられた）
文学	<u>二葉亭四迷</u> （ふたばていしめい）	「浮雲」
	<u>樋口一葉</u> （ひぐちいちよう）	「たけくらべ」
	<u>森鷗外</u> （もりおうがい）	「舞姫」
	<u>夏目漱石</u> （なつめそうせき）	「坊っちゃん」「吾輩は猫である」
詩歌	<u>正岡子規</u> （まさおかしき） <u>与謝野晶子</u>	子規は俳句や短歌を新しくし、晶子は「みだれ髪」で情熱的な短歌をよんだ



高村光雲「老猿」
（木彫り。東京国立博物館）
写真：東京国立博物館 ColBase
（CC BY 4.0）。Wikimedia
Commons より、白黒にした

言文一致＝話し言葉に近い文で文章を書くこと。二葉亭四迷の「浮雲」などで広まった

明治時代の文化の特色＝欧米の文化を取り入れながら、日本の伝統的な文化も見直して、新しい文化（近代文化）が
つくられた

注意 × 明治時代の文化は、欧米の文化をまねするだけで、日本の伝統は捨てられた → ○ 岡倉天心やフェノロサが伝統的な美術を見直すなど、伝統も生かされた

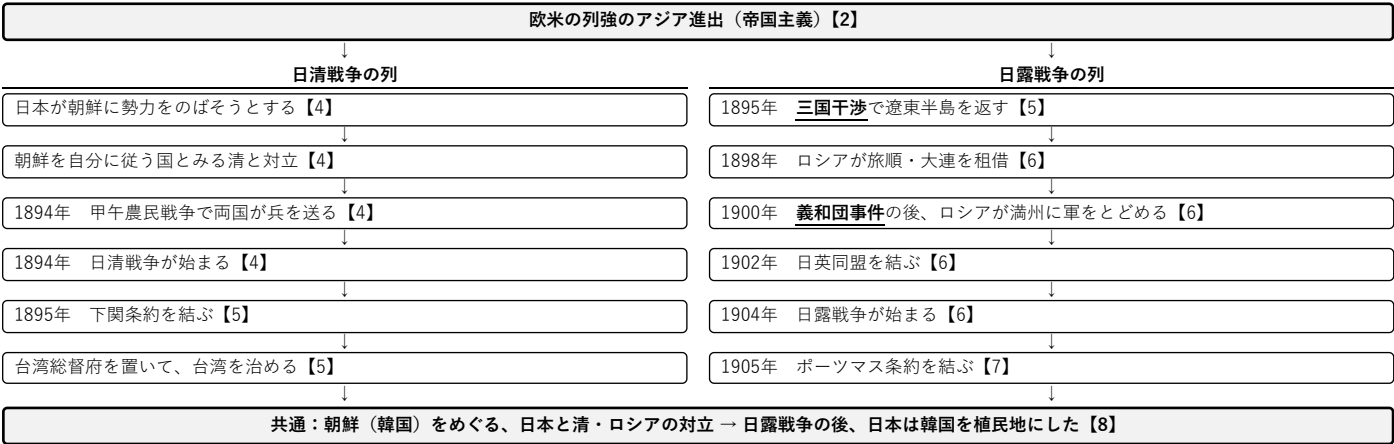
合言葉 「欧米に学び、伝統を見直す」

→ まとめ：欧米と日本の伝統が合わさって、近代文化が生まれた

14 なぜ、日本は清やロシアと戦争をすることになった？

このページのゴール 2～9ページを、2列のステップチャートで整理して、1ページの問いに答えられる

① 2列のステップチャート



② 年表

年	できごと	年	できごと
1886年	ノルマントン号事件	1902年	日英同盟
1894年	領事裁判権の撤廃・甲午農民戦争・日清戦争	1904年	日露戦争
1895年	下関条約・三国干渉	1905年	ポーツマス条約
1900年	義和団事件	1910年	韓国併合
1901年	八幡製鉄所が操業を始める	1911年	関税自主権の回復・辛亥革命
		1912年	中華民国の建国

③ 問いの答えの例

欧米の列強がアジアに進出する中、日本は朝鮮に勢力をのぼそうとして、朝鮮を自分に従う国とみる清と対立し、日清戦争になりました。その後、三国干渉で日本に遼東半島を返させたロシアが、旅順・大連を租借し、満州に軍をとどめたので、韓国と満州をめぐる日本とロシアが対立し、日英同盟を結んだ日本は日露戦争を始めました。どちらも、日本が朝鮮（韓国）に勢力をのぼそうとしたことが、戦争のもとになりました。

→ 日本が近代化を進め、列強に対抗する中で、朝鮮（韓国）をめぐる争いが、清・ロシアとの戦争になった

確認問題① 条約改正と日清戦争

答えと解説は19・20ページ（10枚目の紙）にあります。【 】は、わからないときに読み直すページです。

1 条約改正について答えなさい。【2・3ページ】

- (1) 19世紀の終わりごろ、欧米の強い国々が、原料と製品を売る市場を求めて、軍事力でアジアやアフリカに植民地を広げた動きを何といいますか。 _____
- (2) 条約の改正を進めるため、東京に洋風の建物を建てて舞踏会を開くなど、欧米の制度や生活様式を取り入れた政府の政策を何といいますか。 _____
- (3) 1894年にイギリスが日本との条約の改正に応じたわけとして正しいものを選びなさい。
ア 日本が日露戦争に勝って、国際的な地位が上がったから
イ ロシアの南下を警戒し、日本との関係を良くしようとしたから
ウ アメリカが2つの国の間に入って、話し合いを進めたから
エ 日本が、輸入品の税の率をすでに自由に決められたから _____
- (4) 輸入品にかかる税の率を、自分の国で決める権利を何といいますか。この権利は、1911年に完全に回復しました。 _____
- (5) 1911年、アメリカとの条約で(4)の権利を完全に回復した外務大臣はだれですか。 _____
- (6) 領事裁判権を認めていると、日本にとって何が困りますか。「外国人」「法律」の2つの語を使って書きなさい。

2 日清戦争について答えなさい。【4・5ページ】

- (1) 1894年、朝鮮で、東学という宗教を信仰する人々を中心とした農民が、政治の改革と外国の勢力の排除を求めて起こした反乱を何といいますか。 _____
- (2) 日清戦争の前、日本と清が対立したわけとして正しいものを選びなさい。
ア 清が従う国とみる朝鮮に、日本が勢力をのぼそうとしたから
イ 日本が清に、台湾と澎湖諸島をゆずるように求めたから
ウ 日本が満州の鉄道の権利を手に入れたから
エ 清がイギリスと同盟を結んで日本に対抗したから _____
- (3) 下関条約の内容として正しいものを選びなさい。
ア 清は日本と同盟を結び、朝鮮の独立を守ることを約束した
イ ロシアは韓国での日本の優越を認め、樺太の南部を日本にゆずった
ウ 清は朝鮮の独立を認め、台湾などを日本にゆずった
エ 日本は台湾を清に返し、朝鮮は清に従う国のままとなった _____
- (4) 日清戦争の講和条約で日本が得たが、3つの国に求められて清に返した半島を何といいますか。 _____
- (5) 日清戦争で得た島を植民地として治めるために、日本が置いた役所を何といいますか。 _____
- (6) 日清戦争の後、日本の政府が軍備の拡張を進めたのはなぜですか。「ロシア」「対抗」の2つの語を使って書きなさい。

確認問題② 日露戦争と韓国・中国

答えと解説は19・20ページ（10枚目の紙）にあります。【 】は、わからないときに読み直すページです。

3 日露戦争について答えなさい。【6・7ページ】

- (1) 日清戦争の後、列強が清で行ったこととして正しいものを選びなさい。
ア 清の政府と協力して、日本の軍隊を攻める計画を立てた
イ 清から港を借りる権利や鉄道をしく権利を得て、勢力範囲を広げた
ウ 清の独立を守るために、清の国内にあった軍を引きあげた
エ 清の国内でのアヘンの輸入を禁止するように、清に求めた _____
- (2) 1902年、ロシアの南下を警戒したヨーロッパの国と日本が結んだ同盟を何といいますか。 _____
- (3) 日露戦争のとき、戦場にいる弟を思う詩を発表した歌人はだれですか。 _____
- (4) ポーツマス条約の内容として正しいものを選びなさい。
ア ロシアは韓国での日本の優越を認め、北緯50度より南の樺太を日本にゆずった
イ ロシアは遼東半島を清に返し、日本は朝鮮の独立を認めた
ウ ロシアは台湾と澎湖諸島を日本にゆずり、日本は旅順を清に返した
エ ロシアは満州全体を日本の領土と認め、日本は樺太をロシアに返した _____
- (5) 日露戦争がアジアにあたえた影響として正しいものを選びなさい。
ア アジアの国々がそろって、欧米から独立した
イ 清が満州を日本にゆずり、日本の領土になった
ウ 欧米の支配を受けていたアジアの人々に刺激をあたえた
エ アジアの国々が、日本と同盟を結ぶようになった _____
- (6) 1900年代の初め、日本とロシアの対立が深まったのはなぜですか。「満州」「韓国」の2つの語を使って書きなさい。

4 韓国と中国について答えなさい。【8・9ページ】

- (1) 日露戦争の後、韓国を保護国にした日本が、韓国の外交などを動かすために置いた役所を何といいますか。初代の長は伊藤博文でした。 _____
- (2) 韓国併合の後の朝鮮のようすとして正しいものを選びなさい。
ア 朝鮮は清の一部となり、清の皇帝が朝鮮を治めた
イ 朝鮮総督府が置かれ、学校では日本語や日本の歴史を教えた
ウ ロシアが朝鮮に大軍を置き、朝鮮の外交の権利を動かした
エ 朝鮮の人々に外交の権利がもどり、日本の軍隊が引きあげた _____
- (3) 民族の独立・民主政治の実現・国民の生活の安定の3つの考えをとえ、清をたおす革命運動の中心になった人物はだれですか。 _____
- (4) 1911年、武昌で起こった軍隊の反乱から各地に広がり、清をたおした革命を何といいますか。 _____
- (5) 1912年に建国された中華民国について、正しいものを選びなさい。
ア ロシアの助けを受けて、シベリアに建国された国だった
イ 日本が満州に建てた、日本の保護を受ける国だった
ウ ヨーロッパの国の植民地として、上海を中心に建国された
エ アジアで最初の共和国として、南京を首都に建国された _____

確認問題③ 産業革命・近代文化・まとめ

答えと解説は19・20ページ(10枚目の紙)にあります。【 】は、わからないときに読み直すページです。

5 産業革命について答えなさい。【10・11ページ】

- (1) 綿花から綿糸をつくる工業を何といいますか。大阪などに大工場がつくられました。 _____
- (2) 日露戦争の後に大きく発展した工業として正しいものを選びなさい。
ア 鉄鋼・造船・機械などの重工業 イ 手作業で布を織る家内工業
ウ 和紙をすく昔からの工業 エ 焼き物をつくる窯の工業 _____
- (3) 三井・三菱・住友などのように、銀行・鉱山・貿易・工業など、多くの業種の会社を経営した資本家を何といいますか。 _____
- (4) 1911年に、子どもを工場で働かせることや長時間の労働を制限した法律は何ですか。 _____
- (5) 足尾銅山鉱毒事件で、田中正造が行ったことを、「議会」「操業」の2つの語を使って書きなさい。

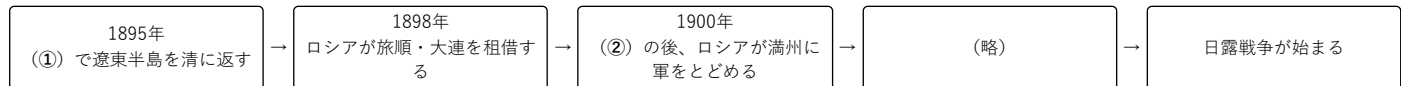
6 近代文化について答えなさい。【12・13ページ】

- (1) 破傷風の治療の方法を発見し、ペスト菌も発見した医学者はだれですか。 _____
- (2) 「坊っちゃん」や「吾輩は猫である」を書いた小説家はだれですか。 _____
- (3) 話し言葉に近い文で、小説などの文章を書くことを何といいますか。 _____
- (4) 明治時代の文化の特色を、「欧米」「伝統」の2つの語を使って書きなさい。

7 年表とまとめについて答えなさい。【1・14ページ】

- (1) 次のできごとを、年代の古い順に並べかえなさい。
ア 日英同盟 イ 甲午農民戦争 ウ 辛亥革命 エ 韓国併合 _____

次の図は、日露戦争が起こるまでの流れをまとめたステップチャートの一部です。(2)(3)に答えなさい。



- (2) 図の①に入る語を書きなさい。 _____
- (3) 図の②に入る語を書きなさい。 _____
- (4) 日露戦争が始まった年を選びなさい。
ア 1894年 イ 1902年 ウ 1904年 エ 1910年 _____
- (5) 日清戦争と日露戦争に共通する、戦争が起こったわけを、「朝鮮」「列強」の2つの語を使って書きなさい。

覚えることの一覧（何も見ずに書けるか、紙でかくして確かめよう）

条約改正（2・3ページ）

帝国主義＝19世紀の終わりごろ、資本主義の発展を背景に、欧米の列強が、原料と製品を売る市場を求めて、軍事力でアジアやアフリカに植民地を広げた動き。不平等条約＝領事裁判権を認め、関税自主権が無い。欧化政策＝井上馨が鹿鳴館（1883年）で舞踏会を開くなど、欧米の制度や生活様式を取り入れた（国民の批判を受け、失敗）。ノルマントン号事件（1886年）→世論の高まり。領事裁判権の撤廃＝1894年・陸奥宗光・イギリスと日英通商航海条約（イギリスはロシアの南下を警戒）。関税自主権の回復＝1911年・小村寿太郎・アメリカとの条約。

日清戦争（4・5ページ）

朝鮮をめぐって、日本と清が対立。甲午農民戦争（1894年・東学・清と日本が兵を送る）→日清戦争（1894年）。下関条約（1895年）＝清は朝鮮の独立を認める・遼東半島と台湾と澎湖諸島を日本にゆずる・賠償金。三国干渉＝ロシア・ドイツ・フランスが遼東半島を清に返すよう求め、日本は受け入れた（ロシアへの反感・軍備の拡張）。台湾総督府＝台湾を植民地として治める。

日露戦争（6・7ページ）

中国分割（旅順・大連の租借〈1898年〉）。義和団事件（1900年）の後、ロシアが満州に軍をとどめる。日英同盟（1902年）。内村鑑三・幸徳秋水が戦争に反対。与謝野晶子が「君死にたまふことなかれ」。日露戦争（1904年）。ポーツマス条約（1905年）＝韓国での日本の優越・旅順と大連の租借権と長春から南の鉄道・北緯50度より南の樺太。賠償金は無し。日比谷焼き打ち事件（1905年）。

韓国と中国（8・9ページ）

大韓帝国（1897年）。保護国と統監府（1905年・初代は伊藤博文）。義兵運動。韓国併合（1910年）＝朝鮮総督府。南満州鉄道株式会社（1906年）。孫文の三民主義（民族・民権・民生）。辛亥革命（1911年・武昌）。中華民国（1912年・アジアで最初の共和国）。清がほろびる。袁世凱。

産業革命（10・11ページ）

軽工業から（1880年代の後半）。紡績業（綿花→綿糸）。製糸業（まゆ→生糸、おもにアメリカへ）。八幡製鉄所（1901年・福岡県・筑豊炭田・賠償金の一部）。重工業。財閥（三井・三菱・住友・安田）。労働問題→労働組合・労働争議→工場法（1911年）。大逆事件（1910年）。足尾銅山鉍毒事件（渡良瀬川）と田中正造。

近代文化（12・13ページ）

教育の広がり・教育勅語（1890年）・津田梅子。北里柴三郎（破傷風・ペスト菌）・志賀潔（赤痢菌）・野口英世（黄熱病）。岡倉天心とフェノロサ・横山大観・黒田清輝・高村光雲「老猿」・滝廉太郎。言文一致（二葉亭四迷）・樋口一葉・森鷗外・夏目漱石・正岡子規・与謝野晶子。特色＝欧米の文化を取り入れ、伝統も見直した。

年表（14ページ）

1886	ノルマントン号事件
1894	領事裁判権の撤廃・日清戦争
1895	下関条約・三国干渉
1900	義和団事件
1901	八幡製鉄所の操業
1902	日英同盟
1904	日露戦争
1905	ポーツマス条約
1910	韓国併合
1911	関税自主権の回復・辛亥革命
1912	中華民国の建国

合言葉

列強は植民地を広げ、日本は不平等条約に苦しむ／陸奥が領事裁判、小村が関税／朝鮮をめぐって、日本と清が対立／下関で台湾、三国干渉で遼東半島を返す／満州のロシアに、日英同盟で備える／ポーツマスで樺太の南、賠償金は無し／保護国で統監府、併合で総督府／孫文の三民主義、辛亥革命で中華民国／綿は紡績、まゆは製糸／八幡で鉄、足尾で鉍毒／北里はペスト、志賀は赤痢、野口は黄熱病／欧米に学び、伝統を見直す

確認問題の答えと解説

1【2・3ページ】

- (1) 帝国主義 (2) 欧化政策
(3) イ (4) 関税自主権
(5) 小村寿太郎

(6) (例) 外国人が日本で罪をおかしても、日本の法律で裁くことができない。
(1) 資本主義が発展した欧米の列強が、原料と市場を求めて植民地を広げた動きです。(2) 井上馨が鹿鳴館で舞踏会を開くなど、欧米の制度や生活様式を取り入れましたが、国民の批判を受けて失敗しました。(3) 1894年は、ロシアの南下を警戒したイギリスが、日本との関係を良くしようとして応じました(アの日露戦争は1904年で後。エは、日本に税の率を決める権利が無かったので誤り)。(4)(5) 1911年に完全に回復したのは関税自主権で、外務大臣は小村寿太郎です(陸奥宗光は1894年の領事裁判権の撤廃)。(6) 採点のめやす:「外国人」「法律」の両方を使って、日本の法律で外国人を裁けないことが書けていれば正解。

2【4・5ページ】

- (1) 甲午農民戦争 (2) ア
(3) ウ (4) 遼東半島
(5) 台湾総督府
(6) (例) 三国干渉で、ロシアなどの3国に対抗する力が無いことが分かり、ロシアに対抗するため。

(1) 東学を信仰する人々を中心とした農民の反乱で、日本と清が兵を送りました。(2) 清は朝鮮を自分に従う国とみていて、日本は朝鮮に勢力をのばそうとしたので対立しました(イは戦争の後の下関条約、ウは日露戦争の後のこと)。(3) 下関条約で、清は朝鮮の独立を認め、台湾などを日本にゆずりました(イはポーツマス条約)。(4) 下関条約で得たが、ロシア・ドイツ・フランスに求められて清に返しました。(5) 台湾には台湾総督府を置いて治めました。(6) 採点のめやす:「ロシア」「対抗」の両方を使って、ロシアに対抗するためと書けていれば正解。

3【6・7ページ】

- (1) イ (2) 日英同盟
(3) 与謝野晶子 (4) ア
(5) ウ
(6) (例) ロシアが満州に大軍をとどめ、韓国に勢力をのばそうとする日本と対立したから。

(1) 日清戦争で清の弱さが分かれると、列強は港の租借や鉄道をしく権利を得て、勢力範囲を広げました。(2) ロシアの南下を警戒するイギリスと、1902年に結びました。(3) 戦場にいる弟を思う詩を発表した歌人です。(4) ポーツマス条約では、韓国での日本の優越と、北緯50度より南の樺太などを得ました(イは三国干渉と下関条約をまぜた誤りで、遼東半島を清に返したのは日本。ウの台湾と澎湖諸島は下関条約で得た所)。(5) 日本がロシアに勝ったことは、欧米の支配を受けていたアジアの人々に刺激をあたえました。(6) 採点のめやす:「満州」「韓国」の両方を使って、ロシアが満州に軍をとどめたことと、日本が韓国に勢力をのばそうとしたことが書けていれば正解。

4【8・9ページ】

- (1) 統監府 (2) イ
(3) 孫文 (4) 辛亥革命
(5) エ
(1) 1905年に韓国を保護国にした日本が置き、初代の統監は伊藤博文です。(2) 1910年の韓国併合の後、朝鮮総督府が置かれ、学校では日本語や日本の歴史を教え、朝鮮の歴史を教えることを制限しました。(3) 三民主義をとえ、清をたおす革命運動の中心になった人物です。(4) 武昌の軍隊の反乱から各地に広がり、清をたおしました。(5) 中華民国は、皇帝のいない、アジアで最初の共和国で、南京を首都にしました。

5【10・11ページ】

- (1) 紡績業 (2) ア
(3) 財閥 (4) 工場法
(5) (例) 議会で取り上げて、銅山の操業の停止と、被害を受けた人々の救済を求めた。
(1) 綿花から綿糸をつくるのが紡績業です(蚕のまゆから生糸をつくるのは製糸業)。(2) 日露戦争の後には、鉄鋼・造船・機械などの重工業が発展しました。(3) 多くの業種の会社を経営して、日本の経済を動かししました。(4) 1911年に、子どもの労働や長時間の労働を制限しました。(5) 採点のめやす:「議会」「操業」の両方を使って、操業の停止などを求めたことが書けていれば正解。

6【12・13ページ】

- (1) 北里柴三郎 (2) 夏目漱石
(3) 言文一致
(4) (例) 欧米の文化を取り入れながら、日本の伝統的な文化も見直して、新しい文化がつくられた。
(1) 破傷風の血清療法とペスト菌の発見は、北里柴三郎です。(2) 「坊っちゃん」「吾輩は猫である」は夏目漱石の作品です。(3) 二葉亭四迷の「浮雲」などで広まりました。(4) 採点のめやす:「欧米」「伝統」の両方を使って、欧米の文化を取り入れつつ伝統も見直したことが書けていれば正解。

7【1・14ページ】

- (1) イ → ア → エ → ウ
(2) 三国干渉 (3) 義和団事件
(4) ウ
(5) (例) 欧米の列強がアジアに進出する中、日本が朝鮮(韓国)に勢力をのばそうとして、清やロシアと対立したから。
(1) 甲午農民戦争(1894年) → 日英同盟(1902年) → 韓国併合(1910年) → 辛亥革命(1911年)の順です。(2) ロシア・ドイツ・フランスが遼東半島の返還を求めたのが三国干渉です。(3) 義和団事件の後も、ロシアは満州に軍をとどめました。(4) 日露戦争は1904年に始まりました。(5) 採点のめやす:「朝鮮」「列強」の両方を使って、朝鮮をめぐる争いが戦争のもとになったことが書けていれば正解。【2・4・6・14】